高知大学　国際連携推進センター

Center for International Collaboration

くじら便り

第5号
2016年5月発行

高知大学　国際連携推進センター

センター長からのごあいさつ

国際連携推進センター
センター長　新納　宏

2016年４月から新たにセンター長になりました新納（にいのう）です。私はこれまで30年余り JICA で国際協力に携わってきました。また、四国滞在歴は６年以上です。その経験を生かして、高知大学の国際化の推進に力を尽くしたいと思います。

当センターは留学生の派遣、受入れを促進する「国際連携教育部門」と大学の研究交流や国際協力を推進する「国際プロジェクト部門」があります。また､国際交流課が全体の実務を担っています。

高知大学に入学した学生たちが、長短の海外留学に行くことが当り前となるような文化を育て、また、海外から多様な学生を受入れて大いに交流できるキャンパスを作ることを目指します。海外から留学してきた学生たちには気持ちよく勉強できる環境を整え、帰国後も高知大学との絆を大切にしてもらえる大学になりたいと考えています。

高知大学は地域の大学として、地域資源や地域課題に直結した分野の研究・教育が進んでいます。たとえば、防災、初中等教育、海洋資源開発、環境と人の共生、地域振興、ヘルシーエイジング、農業・食品加工などです。これらは高知県のみならず､海外でも共通の課題ですので､共同研究を促進し、その成果を地域はもちろんのことアジア・大洋州などの開発途上国等に還元することは国立大学の重要な使命と考えています。

これらのことを実現するには少ない資金・人材の選択と集中が必要となってきます。そのための戦略作りもセンターの重要な役割です。なお、本学の国際戦略と本センターの基本方針は以下に掲載してありますので、ご参照ください。

- http://www.kochi-u.ac.jp/international/information/2015072300031/
- http://www.kochi-u.ac.jp/international/in_center/about.html

このように本センターは高知大学の国際化の旗振り役を果たしますが、実際にそれを担うのは、大学の教職員であり、個々の学生です。また、留学生を受入れたり、地域課題を世界と結びつけたりするには地域の方々のご協力が不可欠です。ご指導、ご協力をよろしくお願いします。

国際連携推進センター組織体制（2016.4.1）

- 総務・国際・地域担当理事　櫻井　克年
- 国際連携担当副学長　菅沼　成文
- 国際連携推進センター長　新納　宏※
  - 副センター長　是永　かな子
  - 中国語センター　林　翠芳（統括管理者）
  - 安徽大学日本語教育センター
  - 国際プロジェクト部門長　柴田　雄介
    - 部門教員　エバ　ガルシア ※
  - 国際連携教育部門長　林　翠芳※
    - 部門教員　神崎　道太郎 ※
    - 大塚　薫 ※
  - 兼務教員
    - 中西　三紀（人文社会科学部）28.5.1～29.3.31
    - 松原　史典（教育学部）28.4.1～29.3.31
    - 梶芳　浩二（理学部）28.4.1～29.3.31
    - 小林　道也（医学部）28.4.1～29.3.31
    - 池島　耕　（農林海洋科学部）28.4.1～29.3.31
    - 湊　邦生（地域協働学部）28.4.1～29.3.31
    - 堀　美菜（黒潮圏総合科学）28.4.1～29.3.31
    - 柴田　雄介（全学教育機構）28.4.1～29.3.31
- 研究国際部長　平井　敏彦
  - 国際交流課長　永野　秀美
    - 国際企画係　吉岡瞳・山脇由子
    - 国際連携係　永野秀美（兼）・門脇英雄・岡本依里・三宮幸子

※は、センター専任を示す。

高知大学 国際戦略

～地域から世界へ、世界から地域へ、グローカルな双方向の国際連携を目指す～

高知大学は、人と環境が調和のとれた持続可能な社会を志向し、南四国や黒潮流域圏の地域特性に根ざした先導的、独創的、国際的な教育研究を推進する。その成果を世界に発信し世界の動きを地域に反映させるグローカルな循環型の国際交流を展開し、地域社会や国際社会の健全な発展に貢献できる人材を育成する。そのため以下の国際戦略を定める。

1. グローカルな人材育成を目指し、双方向の国際交流を推進する

- 地域で学ぶとともに国際的な視野を持つグローカル人材を育成するために、多様な海外教育プログラムを用意し、日本人学生の海外留学を促進する。
- 柔軟なアカデミックイヤーの導入や留学生向けのプログラムの整備等、教育システムの国際通用性を高め、海外から優れた留学生を受け入れる。
- 日本人学生と留学生が集い、互いに学びあう国際的なキャンパスを創造するとともに、地域との交流を深める。

2. 地域資源を活用した国際協力にチャレンジし、地域の国際化に貢献する

- グローカルな教育研究を推進するため、海外の学術・学生交流拠点のネットワーク化を図り、研究者と学生の交流を促進する。
- 教員の研究成果を生かし、JICA等の国際的な活動を行う機関と連携してアジア・大洋州の開発途上国等との国際協力を推進する。
- 実施に当たっては自治体・コミュニティ・経済界等と協力し、地域資源を活用するとともに、地域の国際化に貢献する。
- 国際協力の現場を教育・研究の場としても活用し、実践的で国際的な教育研究を発展させる。

3. 国際交流推進のための環境を整備する

- 日本人の海外留学を増やすために学生へ留学情報を適時に提供するとともに、英語力向上の取り組みを強化する。
- 留学生受入れのための宿舎確保、奨学金の機動的な運用等により留学生が安心して生活できる環境を整備する。
- 帰国留学生のネットワークを強化し、本学との交流・親睦を深めるとともに、本学の広報、優秀な留学生獲得への協力を求める。
- 国際交流を促進するため、教職員の国際化対応力向上に努める。
- 学内が協働して国際化に取り組むため、部局ごとの国際化に向けた取り組みを明確にする。

高知大学
Kochi University

国際プロジェクト部門

ア　国際連携に係る企画・立案及び実施に関すること。
イ　国際連携に係る情報、資料の収集及び情報の提供に関すること。
ウ　外国の大学等との交流協定の締結及び連携推進に関すること。
エ　地域の国際化の推進に関すること。
オ　国際連携に係る競争的資金の獲得に関すること。
カ　国際連携の評価に関すること。
キ　その他国際交流・連携推進に関すること。

国際連携教育部門

ア　留学生の受入れ及び派遣に関すること。
イ　留学生に対する日本語及び日本情報等の教育に関すること。
ウ　留学生に対する修学上及び生活上の指導助言に関すること。
エ　留学希望者の支援に関すること。
オ　学生の国際交流に関すること。
カ　その他国際交流・連携教育に関すること。

日本語予備教育を受けて

夢はかなう

マリア・ロマノヴァ（MARIA ROMANOVA）　人文学部　研究生／ロシア

私は高校のときから、日本の歴史と文化に興味がありました。そのときから、日本に関する本を読もうとしていました。しかし、それらの本は、全てロシア語で書かれた本でした。高校を卒業した後、私は大学で日本の歴史を勉強することになりました。しかし、日本語の授業がなかったので、日本語で歴史の本を読むことができませんでした。

「日本語を学ぶために日本に行くこと」は私の夢でした。勉強するために日本に行けると分かったとき、このチャンスを生かすべきだと思いました。今、日本語と日本の歴史を勉強するという夢を叶えるためにここに来られ、勉強ができとても嬉しいです。

日本語は非常に難しいですが、その難しさに劣らずおもしろいです。私は最初、授業が簡単だと思いましたが、文法がだんだん難しくなりました。しかし、先生方のおかげで、私は文法を理解できるようになり、おもしろくなりました。今、友達と話すとき、新しく習った文法を使って会話するよう努めています。それでも、私はたくさんミスをしますが、一歩一歩日本語が分かるようになっていき、嬉しいです。

また、私は授業のとき、日本での生活について多くのことを学びました。普段、教科書では勉強できないことを日本での生活から学ぶことができました。コースが終わった後も日本語の勉強を続けるつもりです。日本の歴史の本や映画の内容を理解したいからです。研究に励むためにも、毎日毎日、日本語を練習します。

これからじぶんで歩きます

ファン・ホセ・ラウティエル（Juan José LAUTHIER）　医科学専攻　研究生／アルゼンチン

「わたしはホセです。アルゼンチンから来ました」、これが、一番初めに勉強した日本語です。その後、4ヶ月間たくさんの日本語を勉強してきました。そして、わたしは、日本語はとても難しいと思いました。でも、先生は毎日、熱心に教えてくださいましたので、日本語がだんだんわかるようになりました。おかげさまで、今、少し日本語が話せます。でも、もっと日本語を勉強しなければなりません。

わたしは日本語がとても難しかったのですが、今はちがいます。このクラスのおかげで、今は買い物や日本人との会話がこわくないです。今、わたしは、日本の文化と伝統がわかるようになりました。それは、日本語を勉強しているからです。そして、このコースが終わった後も、わたしは日本語を勉強していきます。

さらに、わたしは、たくさんのすばらしい友だちに会いました。そして、岡山や大阪などいろいろなところに行っています。今、日本語はこわくないです。今、日本語はとても楽しくおもしろいと思います。この日本語というツールを利用して、わたしの研究を改善することができます。この日本語のコースが終わった後、ようやくわたしは、ドクターコースで研究する夢を達成できます。先生方、ほんとうにどうもありがとうございました。

外国人留学生課外研修に参加して

山あいの自然の豊かさを味わう

安　ダラン（AN Darang）　教育学部　特別聴講学生／韓国（明知大学校）

2015年10月24日、課外研修の一環として四国カルストと梼原町へ行きました。四国カルストは標高1,485mの天狗森を最高峰に東西にわたって広がった高原です。そして、四国カルストまではくねくねとした山道が多くて車酔いをしてしまいました。しかし、からっとした風景をみると、すぐに気分がよくなりました。そして、多くの牛が放牧されており、のどかな風景を見ることができました。それを見ていたら、このような高いところに牛がいるなんて不思議だと思い、多くの写真を撮りました。

昼ごはんを食べてからは梼原町に行きました。梼原町では地図を見ながら自由に町の散策をしました。まず、三島神社にお参りに行っておみくじを引きました。結果は大吉で、とても嬉しかったです。梼原町は面積の91％を森林が占めており、森に囲まれた町だけあって、木の素材を生かした感性豊かな建物が多くありました。梼原町の町並みは田舎ののどかな雰囲気もある反面、環境や景観への取り組みが行われていてモダンな雰囲気もあって、見るだけでも楽しかったです。今回の課外研修を通じて、都市では感じられない自然の豊かさを感じることができて、とても貴重な体験となりました。

＊学生の所属・学年表記は 2015 年度のものです（以下同様）。

留学生のメッセージ

夢が始まった場所－高知大学

王　羅剛（WANG Luogang）　人文学部社会経済学科１年生／中国

日本に来てからもう４年経ちましたが、やっと自分が学びたいことを見付けました。それは会計学です。

大学に入ったばかりの時は、何も分からなくて、将来自分が何をやりたいのかも考えてなかったのです。最初の履修登録の時は、簡単そうな授業ばかりをとりました。しかし、簡単そうに見えた科目が、実際に受けてみると、そうではなかったのです。数学がもともと好きなので、数学の授業は楽しく過ごせましたが、憲法や民法などの授業はとても疲れました。よく考えたら、日本語能力不足も一つの問題でありますが、興味がなかったのが一番大きな問題だったと思います。間もなく１年生が終了しますが、高知大学に入ってこの一年間、一番嬉しかったのは、自分が勉強したい科目を見つけたことです。１年生の２学期に入って、山内先生の「企業経営を考える」という授業をとりました。それで、簿記の勉強を始めましたが、最初は慣れませんでした。しかし、慣れてきたらすぐに夢中になり、のめり込んでしまいました。今も朝早い時間に起きて、簿記の勉強をしています。

私は会計にとても興味を持つようになりました。先生と相談したところ、外国人にとって、公認会計士の資格を取得するのは非常に難しいとのことですが、でも私は諦めません。どこまでいけるのか、将来どうなるのかは自分でも分からないですが、日本にいる間は全力でがんばりたいと思います。高知大学は私の夢が始まった場所であります。

印象的な高知大学での留学の体験

アンドレ・アンデショーン（ANDRE ANDERSSON）教育学部 特別聴講学生／スウェーデン（イェーテボリ大学）

日本に留学することは、日本語を勉強し始めた時からずっとしたかったことである。そして、今まさに高知大学に交換留学中である。実は、これは初めての日本、そしてアジアでもある。来る前に日本の文化を理解できるかどうか、いろいろな心配があった。しかし、日本と日本語への興味が疑念より強く、日本に来られて本当にうれしい。

たしかに、高知に来てからの２週間は非常に忙しく毎日新しい経験と感動があった。それに、この新しい体験は刺激的でいい感じであった。高知大の先生、日本人の学生と他の国から来た留学生、皆とても優しくて友だちがたくさんできた。だんだん高知大と高知市が好きになり、勉強したい気分もわきでてきた。今の安心感は大変気持ちが良く、皆のおかげなのでありがたく思っている。

最近は授業に喜んで行ったり、日本人と留学生の友だちといろいろなところへ遊びに行ったりして、留学生活に慣れてきた。自分が触れたかった日本を毎日体験できうれしく、幸せな一年間になりそうである。

高知大学で自分の居場所を見つけた

王　超男（WANG Chaonan）　愛媛大学連合農学研究科　博士課程３年生／中国

2011年４月に高知大学に入学してからのこの５年間、いろいろな日本人学生と留学生に出会い、たくさんの友達ができました。特に、日々高知県民の「熱情」の中で留学生活を送ることができたことで、一人暮らしの不安も少なくなりました。

高知大学では勉学、研究を通して専門知識を身につけたのは勿論のことですが、ここでもう一つ、自分の夢も見つけました。入学当初、卒業後の進路に迷いました。中国と日本のどちらで就職した方が自分に合うのかを何度も何度も考えました。そして、高知大学にいる間に、いろいろな留学生活動を体験し、特に企業見学やインターンシップなどを通して、日本企業が積極的に海外進出していることを身を持って感じました。「日本で学んだ知識を活用し、日本と中国の懸け橋になれれば…」という考えが芽生え、日本での就職活動を始めました。４か月後に順調に会社の海外技術部の内定をもらいました。

これからも、高知大学を原点として、ここで学んだ知識と経験を生かし、夢に向かい頑張ってまいります。

高知体験型短期留学プログラム感想

2015年７月26日（日）から８月３日（月）にかけて「高知体験型短期留学プログラム」が国際連携推進センター主催で初めて実施されました。本プログラムには、高知大学の協定校である中国の安徽大学から４名、東北大学秦皇島分校から９名、韓国の明知大学校から６名の留学生と東北大学秦皇島分校の教員１名の計20名が参加しました。異文化理解を深めるために高知や日本文化に関する講義や発表会の見学、高知の自然や文化に触れ合うフィールド見学や体験活動を通して実りあるプログラムになりました。また、３大学の留学生とサポート役の本学の日本人学生、高知県の地域の方々との交流も深まり、体験ベースの有意義な国際交流の場が展開されました。

僕が感じた日本

安徽大学外語学院日語系３年生　王　志壮（WANG Zhizhuang）

日本という国名を聞くと、礼儀正しい民族というイメージ、また一生懸命働いている様子が頭の中に浮かんでくるはずだ。中国人が初めて日本に来たなら絶対に驚いてしまうと思う。しかし、先のイメージは否定できないばかりか、日本という国は希望が見える国だと感じる。なぜならば、少子化および高齢化にもかかわらず、日本人は産業革命時代の巨大マシンのように働き続けている。一方、中国は経済が急発展しているものの、そのような中国の環境の中で自己を失った人は数え切れなさそうだ。

日本では、ルールを破る人は数少ないと思われる。大げさにいうと、道に出たら、頭を下げてもまっすぐ歩いても全く危険ではない。道路のあちこちでみなが譲り合い、トラブルなどほとんどおこらない。小学生からお年寄りまで、みんな共通の意識を保っているようだ。高知大学に行く途中、僕たちが笑いながら、列がバラバラになってしまい、突然後ろからあるお年寄りに怒鳴られたことがあった。よその国では「余計なお世話だ」と考えられる可能性があるが、日本では異なり、引率の学生を始めみなお詫びをした。

時間は長くはなかったが、日本の美点を色々体験させてもらった。このような日本の美点を周りの友だちにも是非見てほしい。今後も日本の長所を学び、生かしていきたい。

優しい日本人

東北大学秦皇島分校外語学院日語系4年生　任　那（REN Na）

卒業旅行に参加する気持ちで今回の高知体験型短期留学プログラムに参加した。初めての海外旅行なので、最初は日本へ行くことを恐れていた。

最も印象に残っているのはやはり日本人の優しさだ。ある日の研修中、山道で車酔いし、皆と一緒に船に乗ることができなかった。バスの中で休んでいたが、運転手さんに親切に話しかけられ、車の中のクーラーを付けてくれて、ほんとうにありがたかった。そして、ずっとクーラーは大丈夫かと聞かれて、感動した。運転手さんの優しい声が心の中の柔らかいところにぶつかった。日本に来て、そのような日本人の優しさは空気の中に漂っていることに気づいた。研修中は蒸し暑い天気だったが、皆の優しさが涼しい風のように心の中に吹いてくるように感じた。

今回のプログラムでいろいろなことが勉強になり、多くのことにも気づいた。以前、日本についての印象はただ曖昧で、教科書から読んだことだけだったが、今は日本についてより深く理解し、好きになった。日本語を勉強することで日本に来ることができ、優しい皆さんに出会うことができて、とてもありがたいと思う。機会があれば、また日本に行きたい。

日本の太陽よりも私の胸をさらに熱くしてくれたこれ！

明知大学校人文学部日語日文学科４年生　鄭　敬穆（JEONG Kyungmok）

最も印象に残ったことを、どれにしていいか分からない。日本の文化、体験したことの中で一つを選ばなければならない気がするが、今私の胸に最も印象に残っているのはこれだと思う。それは、「人」である。実は日本へ研修に行くことになった時、こんなに強い余韻が残るとは思っていなかった。しかし、研修の最終日の夜、荷造りしながら感じた。ここで会った人たちにもう一度会いに来たいと。

まず、完璧に構成されたプログラムを一日一日体験しながら、今回の研修のために努力してくださった先生とセンターの関係者の方々の徹底した準備と努力は話さなくても感じることができた。一日も意味なく送った日はなかったと思う。東京や大阪などソウルと変わらない都会では感じられない日本の歴史、文化などを体験することができた。真の日本の趣を感じることができる良い機会だった。

研修期間の間、太陽より熱い思いをくださった先生方と日本人学生に一生忘れられない深い感動を受けた。また機会があれば美しい自然と心の温かい人達がいる高知で交換留学生として時間を過ごしたい。高知は私の心の中で永遠に、いい人たちと一緒に過ごした幸せな思い出として残っている。また、韓国人に日本のいいところ、いや高知のいいところを紹介したい。美しい自然と人がいる所、高知に一度は行ってみたらどうかと。

協定校への留学体験

安徽大学に留学して

松　彩華（MATSU Ayaka）人文学部国際社会コミュニケーション学科４年生／日本

私は2014年２月から2015年の２月までの１年間、中国の安徽大学の国際教育学院に交換留学生として留学していました。授業は全て中国語での授業でした。中国では２月が後期ということもあり、ほとんどの留学生が中国語での授業や生活に慣れているようで、来たばかりの私はついて行くのに必死でしたが、アジア圏やアフリカ、ヨーロッパや中南米、東欧など様々な国からの留学生のサポートもありすぐに慣れることができたとともに、様々な国のことを知ることもできました。交流の中で特に印象に残っているのは、多くの留学生が「中国語を習得し帰国後は自分の国の発展や将来に貢献したい！」という強い目的意識を持っていることでした。こうした学生とそれぞれの目標に向かって互いに切磋琢磨し合えたことで、１年間の留学生活はとても有意義なものとなり、あっという間に過ぎたように思います。学習面以外には、休日を使って旅行に出かけることができました。中国では、高速鉄道が整備されてきており交通費も高く、多くの民族が住んでいるため、行くところ全てで新しい発見がありました。留学生活では不便なことも沢山ありましたが、それを解決していく力も養うことができたと感じています。留学を決意するまでは様々な面で不安や心配がありましたが、この１年間は私にとって、なにものにも変えられない貴重なものとなりました。留学の機会をいただき本当にありがとうございました。

挑戦することで新たな自分が見えてくるはず

森　文香（MORI Fumika）　土佐さきがけプログラム国際人材育成コース４年生／日本

私は10ヶ月間、協定校であるスウェーデンのイェーテボリ大学に留学していました。スウェーデンは母語がスウェーデン語ですが、多くのスウェーデン人が流暢な英語を話し、大学での留学生のための授業は全て英語です。私はスウェーデンの教育、ジェンダー問題などについて勉強しました。ヨーロッパ各国から来ている留学生たちと意見交換をすることでとても刺激になりました。また、日本語を専攻している学生に日本語を教えることで改めて日本の良さも気付くことができたと思います。せっかくの機会だったのでスウェーデン語の勉強にも挑戦し、とても貴重な経験になりました。学校が休みのときにはヨーロッパ圏内を旅行し、いろいろな景色を目に焼き付けることができて楽しかったです。スウェーデンに留学したことで男性の育児参加や女性の社会進出の姿を自然と目の当たりにしこれからの自分自身の課題を見つけるいいきっかけになったと思います。留学を考えている人は、スウェーデンに行けば日本とは全く違う文化の中に身をおくことで大きく成長できる留学になると思います。物怖じせずに、いろいろなことに挑戦することで新たな自分が見えてくるでしょう。

「東南アジアのMelting Pod」多民族国家マレーシアへの留学

綱嶋　修斗（TSUNASHIMA Shuto）土佐さきがけプログラム国際人材育成コース４年生／日本

小学生の間の４年間をマレーシアで過ごしたのがきっかけで海外に興味を持ち、大学入学前から長期留学したいという思いがありました。そしてマレーシアのクアラルンプール郊外にあるプトラ大学（UPM）に１年間留学しました。

UPM はもともと農業大学で牧場やゴルフコースを含めた広大な土地を有しています。現在は多数の学部があり、その中で私は Faculty of Modern Language に所属していました。授業は基本的に３時間授業で１週間の内に２時間と１時間に分けて開講されます。日本でも英語で開講される講義は受けていましたが、はじめは現地の生徒と同じスピードで授業内容を理解し、ノートをとるのに苦労しました。しかし、現地の生活にもすぐに慣れ２学期は他学部の授業やスポーツの授業など、１学期よりも多くの授業を履修しました。マレー語やタミル語といった日本では馴染みのない授業は特に興味深かったです。

授業時間外にも、インド系コミュニティのイベントにジッパードレス（インド人男性の伝統衣装）で参加したり、ローカルの学生に混じって寮対抗イベントに参加したりと、とにかく現地に浸った生活を送りました。授業がない日には友人と出かけることが多かったのですが、１人で KL の街へ出かけ散策するのもまた楽しみでした。半年の留学生活で満足できなかったことの反省を生かしたことで、２学期は非常に充実した毎日を過ごすことができました。何より授業やイベントでたくさんの人に出会い、友人が増えたことが私にとっては大きな思い出です。今でも SNS を通じて連絡を取り合っています。

マレーシアへの留学は前例がなく現地の様子が分からないまま留学し、はじめは生活環境に戸惑いましたが今では良い思い出です。この留学を通じて経験した困難は確実に自分のレベルアップにつながりました。良いことも、悪いことも現地の生活をするということは同時に異文化理解にもつながる経験です。

留学は自分の殻を破るいい機会です。自分は向こうの学生からしてみれば留学生、何事も失敗して当たり前です。そう考えて行動し失敗しても私は良いと思います。あくまで日本人であるという自覚を持って行動し、現地色に染まるときはどっぷり染まることが大切です。様々な経験をさせてもらったマレーシアと受け入れてくれた友人たちには感謝しています。

様々な民族が暮らすマレーシアは日本人も多くて過ごしやすく、東南アジアの中でも特に発達していて本当に魅力的な国です。ぜひ皆さんも留学先の選択肢として考えてみてください。

2015年度留学生関係活動報告

留学生と学長を囲む会

2015年５月20日(水)、朝倉キャンパスの国際連携推進センターにて「留学生と学長を囲む会」が開催され、留学生24名、日本人学生３名、教職員13名、合計40名が参加しました。会では、ウクライナ、インドネシア、中国、ブルガリアの各留学生が「日本に来てからの異文化体験」というテーマで体験を発表しました。

留学生の発表の後、脇口学長から各発表者に対してコメントと留学生が感じた日本の文化が形成された背景等について話されました。

参加した留学生からは、「自分の国ではなかなか学長に会うことはないので、よい経験になった」等の意見もあり、大変有意義な交流の場となりました。

県立高校で留学生が授業

2015年６月12日(金)に、高知県立高知追手前高等学校の３年生の授業として、「異文化理解講座」があり、本学の留学生９名が講師として参加しました。

講座は、教室を９グループに分け、インドネシア、韓国、中国、台湾、ベトナム、モンゴル、マレーシア、ブルガリア、エチオピアの９カ国・地域の各留学生が自国の歴史や文化、政治、経済等日本との比較をしながら説明を行いました。

授業を受けた生徒からは、「講師の先生方の魅力と興味深い話が聞けて大変良かった」、また、担当教員からは、「見事な日本語での講義と手の込んだ資料に驚きました」等の感想がありました。

留学生と日本人学生の合同講習交流会を開催

2015年７月４日(土)、留学生と日本人学生との相互理解・相互交流を促す目的で、牧野植物園にて合同講習交流会が行われ、留学生14名、日本人学生10名、教職員を合わせ31名が参加しました。

外国人留学生による海外協定校の紹介や日本人学生による海外協定校への留学体験の発表があり、それぞれの発表者は様々な写真を用い魅力的なプレゼンテーションに仕上げていました。今年は留学を体験した学生の発表として、スウェーデン、中国、アメリカでの留学体験を紹介することができ、国民性や気候等多くの点で異なっている国の紹介を聞くことができて学生はとても喜んでいました。発表後は多くの質問があり、海外留学への意欲や期待をうかがわせるものになりました。

高知体験型短期留学プログラムを実施

2015年７月26日(日)から８月３日(月)にかけて、国際連携推進センター主催「高知体験型短期留学プログラム」を実施しました。これは、国際連携推進センターが初めて企画したもので、高知大学の協定校のうち、中国の安徽大学から４名、東北大学秦皇島分校から９名、韓国の明知大学校から６名の留学生と東北大学秦皇島分校の教員１名の計20名が参加しました。

国際理解を深めてもらうための高知の文化事情の紹介、日本文化に関する講義等が行われたほか、異文化理解授業の発表会を見学しました。

また、カツオのさばきの実演見学とわら焼きカツオたたきの体験、いの町紙の博物館での和紙作成、安芸市での町並み見学、室戸市でのクルージング体験等を行いました。

参加した学生からは、「日本語のレベルが向上した。日本の文化、特に高知の文化をよく理解できるようになった。高知大学へ留学し高知で生活してみたい。また、日本人だけでなく、他国の学生とも交流をすることができ、異文化理解につながった」等の感想がありました。

外国人留学生課外研修を実施

2015年10月24日(土)に今年度新たに入学した外国人留学生を対象に日本三大カルストの一つである四国カルスト天狗高原及び梼原町への課外研修を日帰りで実施しました。この研修は、外国人留学生が地域の文化、歴史、地理等を体験し、地域への理解を深めるとともに、留学生間の親睦・交流を図ることを目的としており、留学生61名、日本人学生スタッフ４名、教職員８名が参加しました。

参加者は、最初の訪問地である天狗高原（標高約1,400m）では展望台から望む雄大なパノラマ風景、白い石灰岩が点在する景観、日本の秋の紅葉の美しさに感動し、また、巨大な風力発電プロペラや牛の放牧を前に盛んに写真を撮っていました。

午後は、梼原町を訪問し、町役場の職員から梼原町の歴史、文化、地域産業の取組み等の説明を受けました。

参加した学生からは、「いろいろな国の留学生と友達になれてよかった」、「県内地域の歴史・文化への理解が深まった」等の感想があり、留学生にとって有意義なものとなりました。

第６回高知大学ホームカミングデー 帰国留学生による講演会を開催

2015年11月１日(日)に、本学ホームカミングデーにおいて、帰国留学生による講演会を実施しました。

ホームカミングデーは、今回第６回目で、記念講演会、各学部ごとの卒業生と学生との交流等の催しが行われ、国際連携推進センターでは、帰国留学生ネットワーク組織（中国、タイ、北欧）の同窓会会長を本学国際交流基金により招聘し、講演をしていただきました。

中国同窓会会長、鐘俊生氏（上海海洋大学教授）は、「母校、知識のみなもと 学友、母校の富－中国同窓会の展望」、タイ同窓会会長、LATTIRASUVAN THANAKORN氏（メージョー大学准教授）は、「Our Better Living is from the Best Opportunity in Kochi University」、北欧同窓会会長、TOTH MARTON ANDRAS 氏（イェーテボリ大学大学院生）は、「竹と雪の物語」の題目でそれぞれ講演し、自国の紹介、本学での留学経験、同窓会組織の現状等について、留学当時の思い出も懐かしみながら語ってくれました。

講演会には、学生・留学生、一般の方々等、本学関係者を含めて39名が来場しました。

2015年度学長主催外国人留学生等交流懇談会を開催

2015年12月２日(水)、高知商工会館において、「2015年度学長

2015年度留学生関係活動報告

主催外国人留学生等交流懇談会」を開催しました。中国、韓国、インドネシア等22の国と地域の留学生と地元の留学生支援団体、関係教職員等の計165名が参加しました。

脇口学長からの挨拶に続き、３キャンパス（朝倉、岡豊、物部）の各代表留学生による日本語でのスピーチが行われ、高知での留学生活の感想や今後の目標、日頃からお世話になっている関係者への感謝の気持ちが述べられました。

ステージパフォーマンスでは、モンゴルの伝統的な踊りやバングラデシュの民族音楽の演奏を留学生が披露し、大いに盛り上がりました。

会場には英語や中国語、日本語等多くの言語が飛び交い、国を超えて楽しく歓談する様子が見られました。最後に留学生全員がステージに上がり、順番にそれぞれの国の言葉で「幸せなら手をたたこう」を歌い、菊地副学長の挨拶と温かなメッセージとともに締めくくられました。

国際Ｃ級グルメ大会に参加（朝倉ふれあいセンター）

2015年12月５日(土)、朝倉ふれあいセンターで開催された恒例の国際Ｃ級グルメ大会に中国、韓国、モンゴル、スウェーデン、ロシア、ウクライナ、イランの留学生が参加しました。

ふれあいセンターの調理室は活気にあふれ、さまざまな言語が飛び交う中、慣れた手つきで各国ご自慢の家庭料理が次々と作られました。大会は昼に始まり、地元の方々からも地元の食材で工夫を凝らした家庭料理が出品されました。談笑しながら、色鮮やかに盛り付けられたそれぞれの料理を堪能し、大変有意義な食文化の国際交流の場となりました。

第8回　カルチャーカフェを開催

2015年12月16日(水)に、国際連携推進センター２階交流スペースで、外国人留学生と日本人学生が交流し、異文化理解を図ることを目的とした「カルチャーカフェ」を開催しました。

第８回目となる今回は、「ロシアとウクライナ」をテーマに行われ、留学生19名、日本人学生11名、高校生・一般２名、教職員３名の合計35名が参加しました。

ロシア出身のロマノヴァ・マリアさんと、ウクライナ出身のコステューク・アナトリーさんが、英語で両国の地理や歴史、民族ダンスや紅茶を飲む習慣等について話しました。時には－60℃にもなるという極寒地方ならではのクリスマスや新年の迎え方についても紹介しました。

参加者のテーブルには、両国で昔から食べられている「バランキ」と「プリャニキ」というお菓子が配られ、紅茶とともにいただきました。そのほか、みんなでキリル文字を発音したり、輪になって手をつないで踊ったりと楽しい会になりました。

特別支援学校主催「留学生との交流会」

2016年１月９日(土)、インドネシアのリア外国語大学とタンジュンプラ大学の交換留学生５名が、教育学部附属特別支援学校が主催する「留学生との交流会」に参加しました。

この交流会は、毎年この時期に特別支援学校に通う生徒と保護者が、留学生と一緒にその国の代表的な料理を作ることで親睦を深めるもので、今回は教職員も含めて30名の参加がありました。交流会では、まず留学生がインドネシアの場所や気候といった基本情報に加えて、子どもに人気がある遊び、様々な交通手段等について説明しました。

その後、ナシゴレン、ダーダーミー、コラックというインドネシアでよく食べられている料理をグループに分かれて作りました。

ミニデーに参加（朝倉ふれあいセンター）

2016年１月15日(金)、朝倉ふれあいセンターで開催された高知市老人クラブ連合会主催の地域交流ミニデーに韓国、台湾、スウェーデンからの交換留学生３名が参加し、老人クラブの皆さんと親睦を図りました。

交流会では、初めに老人クラブの皆さんと一緒に体操をし、その後３人の留学生がそれぞれの出身地の気候や文化等の特徴について紹介しました。また、かつて日本で活躍された韓国や台湾の歌手の歌を披露したり、ゲームを一緒に楽しんだりしました。交流会の最後に３人の留学生は、老人クラブのメンバーの一人ひとりと握手を交わしながら話をし、会場はますます熱気に包まれました。昼には、ふれあいセンタースタッフの手作りによるちらし寿司やぜんざい等が振る舞われました。留学生からは、「貴重な体験ができて本当に良かった」との感想が寄せられ、双方にとって貴重な異文化体験となりました。

KAKEHASHIプロジェクトで学生が米国シアトルを訪問

2016年３月８日(火)～15日(火)の日程で、学内選考を経て選ばれた学生13名が米国のシアトルを訪問しました。学生たちは、高知の魅力に関する英語のプレゼンと、よさこい・歌のパフォーマンスを出発前の約２ケ月をかけて準備し、現地の大学やコミュニティカレッジ、小学校等で披露しました。シアトル滞在の最終日には、各々が日本に帰って取り組みたい日本の魅力発信のためのアクションプランを作成し、今後も日本と海外とをつなぐ懸け橋となることを誓いました。

高知大学帰国留学生ネットワーク（中国）第三回総会開催

2016年３月26日(土)に高知大学帰国留学生ネットワーク（中国）第３回総会が上海甸園賓館にて開催されました。今回の同窓会には、30余名の帰国留学生が参加され、特に若い元留学生の参加が目立ちました。２年ほど前に立ち上げたSNS「WeChat」の同窓会グループも同窓会開催日当日からわずか１日でメンバーが100数名も増え、３月28日現在、グループメンバーは178名となり、皆さんが同窓会の活動に大きな関心を寄せていることが窺えました。今回の総会では、第３期の会長、副会長及び幹事の選出が行われ、南京航空航天大学の朱孔軍教授が満場一致で会長として選出されました。総会では参加者一人一人による自己紹介、近況報告が行われ、夜は同ホテルにて交流懇談会が行われました。

2015年度国際交流関係活動報告

AMDAグループとの連携協定調印式

2015年４月14日（水）、朝倉キャンパス本部管理棟において、本学とAMDAグループとの連携協力に関する協定調印が脇口宏学長及び菅波茂AMDAグループ代表により行われました。

本学とAMDAグループとは、これまでも医学部と特定非営利法人AMDAが2009年に連携協定を結び、医学部生がAMDAの行っているネパール事業の現地見学を行う等協力関係にありました。

今回の包括的な連携協定の締結により、学部授業科目におけるAMDA関係者による講義や、本学がJICAから受託している課題別研修「総合防災行政（B）」への講師招へい等、さらなる協力関係が進むことが期待されます。

タンジュンプラ大学（インドネシア）の学長表敬訪問

2015年５月15日（金）にインドネシアのタンジュンプラ大学の教員５名及び学生21名が脇口学長を表敬訪問し、関係者と会談しました。

脇口学長から歓迎の言葉が述べられた後、自己紹介の際には、来日前にインドネシアで学んできた日本語を学生が披露する等日本への関心の高さがうかがえたほか、本学で学ぶ土佐さきがけプログラム４年生のインドネシア出身留学生が母語による通訳を担当し、和やかな会談となりました。

今回の訪問は、「SCENE 2015 Science, Engineering and Culture Exhibition」による交流プログラムの一環で、５日間の高知滞在期間中に、本学の施設見学や学生、研究者との交流をはじめ、高知県内の企業見学等が行われました。

ガーナ大学オウス教授（本学卒業生）の表敬訪問

2015年６月８日（月）に、ガーナ大学副学長で、本学大学院農学研究科修了生のオウス教授（Prof. Ebenezer Oduro Owusu）が、今後の交流に向けた協議のため、民間の交流支援団体（高知ミナポート会、ガーナよさこい支援会）と共に、本学を表敬訪問し、国際連携推進センター長の菊地教授らと会談しました。

会談では、オウス教授から、学生交流や研究者交流、共同研究への期待が述べられ、本学とガーナ大学の今後の交流に関して、早急に計画を進めていきたいとの意向が示されました。

本学では、毎年、アフリカの留学生を受入れており、新たにアフリカ大陸の大学と協定を締結することになれば、共同研究や学生交流の発展、アフリカでの帰国留学生のネットワーク設立によるグローカルな国際連携が期待されます。

安徽大学訪問団による学長表敬訪問

2015年９月24日（木）に安徽大学から歴史学系の周教授、文学院の楊教授、徽学研究センターの劉教授、外語学院の程講師の４名が脇口学長を表敬訪問しました。

本学朝倉キャンパスで開催された人文社会科学系国際学術シンポジウム「異文化理解に関する日中学術論壇」のために来日したもので、学長表敬訪問では、安徽大学の紹介、シンポジウムでの歴史学や漢語教育、英語、日本語教育の各分野に関する研究発表の説明及び意見交換が行われました。

本学と安徽大学は、学術・学生交流を積極的に推進しており、毎年、留学生の受入や派遣、教員の相互交流を行っています。安徽大学からは、「多くの高知大学生が安徽大学へ留学されるよう願っています」との期待を込めたメッセージがありました。

SUIJI-JDP-Ms 学生の国際連携推進センター長表敬訪問

2015年10月２日（金）にインドネシアからSUIJI-JDP-Msプログラムの学生12名が、菊地国際連携推進センター長を表敬訪問しました。

これは、インドネシア３大学（ガジャマダ大学、ボゴール農業大学、ハサヌディン大学）から愛媛大学、香川大学、高知大学に留学し学んでいる大学院生が本学実施の共同授業（10月2日～４日）に参加したものです。

共同授業では、高知県立牧野植物園での熱帯植物の観察、スーパーマーケット等での地域協働による農産物生産から販売までの現場の視察、高知県東部にある室戸ジオパークや地域資源を活かした産業の見学が行われました。

安徽大学学長等による学長表敬訪問

2015年10月30日（金）に中国の安徽大学の程桦学長、郭志远国際合作与交流処処長、肖亚中科学技術処処長、唐千友外語学院日語系副教授が本学の脇口学長を表敬訪問し、関係者と会談しました。

本学と安徽大学は、2002年に大学間交流協定を締結し、交換留学生や教員の相互派遣のほか、2012年には高知大学中国語センターの開設、2013年には高知大学安徽事務所を開設し、学術・学生交流において活発な交流を行ってきました。

表敬訪問では、脇口学長から歓迎の言葉が述べられた後、安徽大学程桦学長から、これまでの交流への謝辞や、政府、民間等を含めた広範囲の交流推進への期待が述べられました。

佳木斯大学学長等による学長表敬訪問

2015年12月16日（水）に中国の大学間協定校である佳木斯大学の邱洪斌学長、姜志梅康复医学院長（リハビリテーション医学院長）、張鳳杰外国語学院長が、本学の脇口学長を表敬訪問し、関係者と会談しま

2015年度国際交流関係活動報告

した。
表敬訪問では、脇口学長から歓迎の言葉が述べられた後、佳木斯大学の邱洪斌学長から、これまでの交流への謝辞や、今後の交流推進への抱負が述べられました。
両大学は、双方医学系の交流から始まって30年が経ち、今後、医学分野では臨床面の交流や共同セミナー等の交流も行うことが期待されます。

南京航空航天大学からの表敬訪問

2015年12月21日(月)に大学間協定校である中国の南京航空航天大学から王永亮副学長、黄炳輝教授、陳峰准教授、研究者の張鵬氏、江愛華氏が、本学の菊地副学長を表敬訪問し、関係者と会談しました。

表敬訪問では、菊地副学長から歓迎の言葉が述べられた後、南京航空航天大学の王永亮副学長から、これまでの交流への謝辞のほか、国際交流の状況、研究分野の紹介等があり、今後の学術・学生交流推進への期待が述べられました。
また、本学で10月から在籍している外国語学部日本語学科等からの交換留学生５名の紹介があり、本学での学習や留学生活についての感想を語ってもらいました。
最後に、ぜひ学生たちには、中国と日本の相互理解に繋がるよう懸け橋となってほしいとのメッセージが寄せられました。

2015年度研修・講演会関係

2015年度高知大学国際連携推進センター主催講演会＆ワークショップ

「ソーシャルメディアと日本語教育」

2015年６月20日(土)に、国際連携推進センター主催の講演会及びワークショップが開催されました。高知大学教職員、日本人学生、留学生のほか、県内からも多くの方に出席していただき、合計55名の参加となりました。
講師には、神戸大学留学生センター教授リチャード・ハリソン氏をお招きし、「ソーシャルメディアと日本語教育」という演題で、インターネット上で展開されている情報メディアを活用した日本語教育の動向や特性、学習のための実際の応用例を紹介していただきました。

また、ワークショップでは、実際に使われているソーシャルメディアの例を体験し、日本語教育の現場における課題について議論しました。

2015年度高知大学国際連携推進センター主催講演会・シンポジウム

「異文化理解コミュニケーション：講演・シンポジウム」

2015年７月１日(水)に、国際連携推進センター主催の「異文化理解コミュニケーション：講演・シンポジウム」を開催しました。教職員、日本人学生、留学生のほか、本学のサマープログラムに参加中のロードアイランド大学（アメリカ）やマレーシアプトラ大学（マレーシア）等からの学生にも出席していただき、合計60名が参加しました。
第１部の講演会では、講師にチェンマイ大学（タイ）サリネーアンタラセナ博士が「ことわざに見るタイと日本の文化比較」という演題で、20個のことわざの意味や文化を歴史的背景を交えながら紹介してくださいました。

第２部では、本学のサマープログラムに参加中のロードアイランド大学及びマレーシアプトラ大学からの学生による大学紹介、本学の学生によるイェーテボリ大学での留学報告が行われました。

2015年度高知大学国際連携推進センター主催講演会（SD研修）

2015年12月15日(火)に、国際連携推進センター主催講演会（SD研修）として、ロンドン大学の名誉講師で映画俳優の発音矯正も担当されているジェフ・リンズィー博士を講師に、IELTS、TOEFL、TOEIC等英語の資格試験を目指す上で日本人が苦手とするリスニングとスピーキングの克服のためのポイント等について講演が行われました。この講演会は、学生に理解を深めてもらうことや教職員の職務上の能力向上、英語に興味を持つ地域の一般の方々への学習意欲の向上を目的に実施され、学生や教職員、高校生、一般の英語学習者等78名が参加しました。

講演会は、全て英語で行われ、映画「ピンクパンサー」のテーマソング等に合わせた発音練習や、発音の強弱、日本人が苦手な発音の発声方法等、参加者に発声練習してもらい、正確な発音を正しく聞いて話すための方法を楽しく説明していただきました。

編集後記

国際連携推進センターが発足されて２年が経ちました。この２年間、大学がかねてより自治体を中心に地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める中、留学生も地域との交流がますます盛んになってきております。紙面の関係ですべての活動をここに詳細に掲載することができませんが、大学のHPの国際交流のページにセンターの活動等を掲載しておりますので、そちらも覗いていただけると幸いです。どうぞ今後とも皆様の一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。「くじら便り」第５号も無事発行されましたことに深く感謝申し上げます。　（林翠芳　記）

2016年度第1学期　国際連携推進センター教員（専任・非常勤）担当授業時間割

時　限	開講キャンパス等	月（MON）	火（TUE）	水（WED）	木（THU）	金（FRI）
Ⅰ 8:50～10:20	日本語集中（朝倉）					
	日本語総合（朝倉）			中級漢字・語彙Ⅰ（尾中）		
	日本語総合（物部）		初級Ⅳ（神崎）		初級Ⅳ（今井）	
	共通教育				日本語Ⅰ（林）	
Ⅱ 10:30～12:00	日本語集中（朝倉）					
	日本語総合（朝倉）	中級作文（神崎）		初中級会話Ⅰ（大塚）	初級文法（神崎）	中級会話Ⅰ（池）
	日本語総合（物部）	中級聴解・会話（大塚）	初級Ⅱ（神崎）		初級Ⅱ（今井）	
	共通教育		日本語Ⅰ（林）			
Ⅲ 13:10～14:40	日本語集中（朝倉）					
	日本語総合（朝倉）	初級文法（神崎）	中級聴解Ⅰ（石川）		アカデミック日本語Ⅰ（大塚・林）	初中級文型（吉田）
	日本語総合（物部）		基礎日本語（神崎）			
	国際人材コース		Political Economy of Japan（新納）			
	カウンセリング		エバ	物部（東條）13:00～15:00	エバ	
Ⅳ 14:50～16:20	日本語集中（朝倉）					
	日本語総合（朝倉）					
	日本語総合（物部）		基礎日本語（神崎）			
	教育学部			異文化理解A（林・大塚）		
	オフィスアワー	神崎	エバ・林		大塚・神崎	エバ
Ⅴ 16:30～18:00	日本語集中（朝倉）					
	日本語総合（朝倉）					
	日本語総合（物部）					
	日本語総合（岡豊）			日本語中級（東條）	日本語初級・日本事情（東條）	

2016年度第2学期　国際連携推進センター開講授業予定

プログラム別	科目名	開講キャンパス
日本語集中コース（予備教育）	基礎文法	朝倉
日本語集中コース（予備教育）	初級聴解・会話	朝倉
日本語総合コース（補講）	初中級文法	朝倉
日本語総合コース（補講）	初中級会話Ⅱ	朝倉
日本語総合コース（補講）	中級漢字・語彙Ⅱ	朝倉
日本語総合コース（補講）	中級聴解Ⅱ	朝倉
日本語総合コース（補講）	中級会話Ⅱ	朝倉
日本語総合コース（補講）	中級読解	朝倉

プログラム別	科目名	開講キャンパス
日本語総合コース（補講）	アカデミック日本語Ⅱ	朝倉
日本語総合コース（補講）	高知文化事情	朝倉
日本語総合コース（補講）	日本語初級Ⅰ	物部
日本語総合コース（補講）	日本語初級Ⅲ	物部
日本語総合コース（補講）	初中級聴解・会話	物部
日本語総合コース（補講）	日本事情	物部
日本語総合コース（補講）	日本語初級・日本事情	岡豊
日本語総合コース（補講）	日本語中級	岡豊

年間行事予定

1学期

4月
- 新入生オリエンテーション（朝倉キャンパス）
- 朝倉・物部キャンパス日本語補講オリエンテーション及びプレースメントテスト（対象：新入生・在来生）
- 高知大学入学式
- 日本語補講授業開始（15週）
- 健康診断（朝倉及び物部キャンパス）
- 海外留学説明会

5月
- 留学生対象チューター制度説明会

6月
- FD・SD研修会（日本語講演会）
- JICAへき地教育研修
- 海外留学に関する説明会
- チューターオリエンテーション

7月
- 外国人学生のための進学説明会
- 高知大学国際交流基金交付式

8月
- JICA総合防災研修

9月
- SUIJIセミナー（ガジャマダ大学：インドネシア）

2学期

10月
- 新入生オリエンテーション（朝倉・物部キャンパス）
- 朝倉・物部キャンパス日本語補講オリエンテーション及びプレースメントテスト（対象：新入生・在来生）
- 日本語補講授業開始　（15週）
- 健康診断（新入生対象　朝倉及び物部キャンパス）
- 海外留学説明会
- 黒潮祭・南風祭
- 留学生対象チューター制度説明会

11月
- 物部キャンパス「一日公開」
- 外国人留学生課外研修
- チューターオリエンテーション
- 留学生によるスピーチコンテスト

12月
- 学長主催外国人留学生等交流会

1月
- 海外留学説明会＆危機管理説明会

2月
- JICAコミュニティ防災研修

3月
- 高知大学国際交流基金報告会

高知大学　国際連携推進センター

〒780-8520　高知市曙町2-5-1　TEL：088-844-8145　FAX：088-844-8718